

■榎本星布尼 俳人。江戸時代後期に、生涯に8冊という当時としては驚異的な数の句集・撰集を残した。

えのもとせいふに

享保大飢饉・1732= 武蔵国八王子本宿で、本陣榎本忠左衛門の一人娘に生まれる。

・・・・・・・・1741=9歳：

徳川吉宗隠居1745=13歳：

義経千本桜・1747=15歳：実母と死別。継母仙朝から俳句の感化をうけ、

その師匠松原庵一世白井鳥酔に入門、芝紅と号する。

・・・・・・・・1750=18歳：

徳川吉宗没・1751=19歳：

自然真菅道・1755=23歳；星布と改号。

八王子の津戸平六郎信親と結婚、喚之を生む。

大弐政治批判1759=27歳：

大岡忠光没・1760=28歳：

久留米藩工事1768=36歳：

・・・・・・・・1769=37歳：鳥酔が死去したため、同門の年下の先輩で清新な句風の加舎白雄に師事。

・・・・・・・・1770=38歳：夫が死去、以後、俳諧に精進し、

田沼意次老中1772=40歳：

・・・・・・・・1777=45歳：

江戸船蝦夷来 1778=46歳：父の死去に続いて、

源内獄中死・1779=47歳：継母も死去。

すでに鳥酔から糸明窓の号をうけていたが、

田沼意次失脚1786=54歳：

・・・・・・・・1788=56歳：*白雄の後援で、品川海晏安寺門前の鳥酔の旧居松原庵を襲い、松原庵三世星布と号する。

混浴禁止・・・1791=59歳：*還暦を迎え念願叶って鳥酔の剃髪。発句'なにとなくこや初秋の鉢坊主'、白雄の脇句'ひろひあげたる椀葉の露'による両吟歌仙を巻いてまもなく、師白雄が急逝、精神的衝撃は大きく、初七日の'ことゝひも墓の秋風ありやなし'はじめ、その哀しみを多くの句に詠む。

松平定信引退1793=61歳：子喚之が星布尼六十賀集として、若年からの句を四季類別に配列した「星布尼句集」を編む。

写楽・・・・1795=63歳：

昌平鬢始・・・1797=65歳：星布門・白雄門の春の発句ほかを収録した「都鳥」、師白雄の七回忌追善集「ななとせの秋」を編刊、

蝦夷地直轄始1799=67歳：*芭蕉の「松の花」独吟歌仙を巻頭に諸家の句を収録した「松の花」、十宗匠が星布門人の句に評点を付した集「美登里能松」「ふぐるま」を刊行。芭蕉'蝶の飛ぶ'句碑を建立。

伊能測量始・1800=68歳：芭蕉百十回忌句碑を八王子東端に建て、

宣長没・・・1801=69歳：*記念に「蝶の日かげ」を刊行するが、その直前に喚之を失い、以後、活動は衰え、

江戸来航・1804=72歳：

ゴロツン拿捕 1811=79歳：八十の賀を祝して門人・友人が「春山集」を刊行、「八十の坂越てもおなじ春の山」の句がある。

生涯に8冊という当時としては驚異的な数の句集・撰集を残して、

浮世床・・・・1813=81歳：

黒住教・・・・1814=82歳：没した。